

(平成 29 年 8 月試験研究業務月報)

FS研究課題名：小豆栽培過程におけるヒロハフウリンホオズキ生態特性の把握

試験研究課題名：FOEASによる京都特産豆類・京野菜生産技術の確立

(2)大規模栽培に対応した大納言小豆の大粒安定多収技術の構築

研 究

丹波大納言小豆の機械化栽培における麦用除草機の利用検討

近年、小豆の機械化栽培では、中耕・培土*を行わず土壌表面の凹凸を無くしてコンバイン収穫の精度を向上させる「狭条密植栽培」が普及しています。しかし、小豆に使用できる除草剤に限られることから、生育初期の抑草がうまくいかなかった場合、追加で行える雑草防除の手段がきわめて少ないことが課題となっています。

そこで、府内の小豆と同様の狭い条間で栽培される北海道の麦作で使用されているカルチ式除草機の応用を検討したところ、雑草の発生が抑制できることが確かめられました。

府内では、外来の難防除雑草である「ヒロハフウリンホオズキ」による小豆の被害が拡大しているため、現在、本機の導入可能性を先行調査しているところです。

※ 中耕・培土：どちらも作物の栽培中に行う作業で、中耕は土壌表層を浅く耕すこと、培土は畝間の土を株元に寄せることをいい、両者は同時に行われることが多い。



カルチ式除草機を用いた除草（左・右）